

## は し が き

言語センター長 江 口 修

新世紀を迎え、ある同僚の研究室のドアに「謹賀新世紀」と墨痕鮮やかな書が掲げられているのを見て、なるほど、気分を切りかえるには良い発想だと感心しました。まさに激変、激動の20世紀が終わり、「20世紀の」と冠した総括が昨年末からあらゆる領域で澎湃として起きてきています。そして21世紀も激変ということでは20世紀に劣らないのではないかとの予測が盛んです。本学も新世紀1年目が創立90周年にあたり、100周年に向けた今後の10年も劣らず激動の時代となるのは間違いなさそうです。たとえば言語の領域でも、携帯の音声認識自動翻訳機の長足の進歩により、逆説的に英語帝国主義が崩壊するのではないかとの見方が出てきています。この予測が当たるかどうかはさておき、日本語の専任スタッフを迎えて、名実共に「言語センター」となったわれわれにとって課題は山積しています。新しいカリキュラムが平成13年度から実施されますが、キャップ制が導入されるなど、ユニバーサル化した大学に適合した教育システムの確立が目指されています。このような状況のもと、われわれ言語センターは複線的な教育システムを構築しなければなりません。まずは、グローバルかつ加速度的に進行する言語の変容をフォローアップしながら、学生の基礎的な言語運用能力の底上げを実現する教育・研究システムを構築すること。そして同時に、能力ある学生にはさらに高度なコミュニケーション力を身につけさせるべく4年間一貫したカリキュラムの編成と実施が要求されています。大学を取り巻く環境が大きく変貌しそうな時代にあっても、明確な理念と目標を持った研究・教育を行うことがもっとも大事であることは言うまでもありません。大学人のこの基本を忘れた軽挙・盲動は厳しく批判されなければならないでしょう。

さて、2001年は本言語センターにとっては再出発の年となります。平成12年度の補正予算で、情報処理センター、ビジネス創造センターと合わせた「新多機能校舎」建設が認められたからです。これを機に、コンピューター支援ラボを情報処理センター実習室と融合させることで、機器のレンタル方式に合流し、機種更新が容易に行えるようになります。さらにはマルチメディアホールが1室増となり、SCSの運用がよりスムーズに行えるようになり、IT革命の時代にふさわしい教育・研究の集中体制が展望可能になります。学生にとっても情報処理センターとドッキングすることでより高度な利用が可能となるでしょう。

スタッフの動きをご紹介しておきましょう。まず先にも触れましたが、待望久しい日本語の専任教官が認められ、平成12年9月1日付で高野寿子さんが教授として赴任されました。ミシガン州立大学で言語学博士号を取得され、長く彼の地で日本語教育に携わられた高野先生は、国際交流センターの日本語教育コーディネーターとしてもそのご活躍が大いに期待されています。さて、本センターにとってはまことに残念なことに、個別言語部門英語系所属の佐藤彰助教授が平成13年4月1日付で大阪大学言語文化学部教官として移られることになりました。2年という短い間ではありましたが、熱心に学生を教えられるそのお姿はわれわれの記憶に長くとどま

ることでしょう。

その他、本センター所属教官の海外渡航等についてご報告しておきます。まず、すでに米国長期出張中の個別言語部門中国語系の裴教官が引き続き、平成14年度3月末まで滞在を延長されることになりました。海外出張について手元にある資料でご紹介しましょう。3月28日から4月5日にかけて中国語の萩原教官が中華人民共和国、上海復旦大学、杭州大学に宋代文学研究国際会議出席と詞学関係資料収集のため出張されました。3月15日から4月9日にかけては応用言語部門の下村教官が共同調査のためポーランド国立アダムミツケビッチ大学東洋学・バルト学科に出張されました。5月4日から11日にかけて、英語系の佐藤彰教官がジョージタウン大学言語学円卓会議に参加されるため渡米。8月1日から9月29日にかけて、助手の平田洋子さんがドイツ連邦共和国ミュンスター大学に視聴覚教育施設における英語学習システムの調査及び研究資料収集のため渡独されました。8月20日から9月30日まで、ドイツ語系の副島教官が資料収集のためアメリカ合衆国国会図書館とオランダ、ライデン大学図書館を訪問されました。英語系の大島教官は、科学研究費補助金による特定領域研究「北東シベリアとアラスカの古アジア諸語に関する緊急調査」でロシア連邦カムチャッカ州ペトロパブロフスクに8月6日から9月29日まで出張なさいました。同じく8月13日から9月30日にかけて応用言語部門の下村教官が共同調査と研究のためポーランド国立コペルニクス大学日本語学科に出張されました。11月12日から19日にかけて中国語系の萩原教官が「中国古代文学論研究の回顧と未来」国際学術会議に出席されるため中華人民共和国上海、復旦大学および資料収集のため北京大学を訪問されました。12月23日から平成13年1月7日にかけてドイツ語系の副島教官が資料収集のためベルリン、ヴァルター・シュピース資料館訪問で渡独されています。

先日友人のフランス人とインターネットでやりとりしていた中で、次のような言葉を投げかけられました。今後の戒めとしたいと思います。

大事なのは、ヴィジョンに裏打ちされたしっかりしたプロジェクト。

追記：本学の学生の活躍で特記すべきことがありましたので、ご報告しておきます。朝日イブニングニュース社主催の英語スピーチコンテスト全国大会に本学の学生が地方予選を勝ち上がり出場しました。3回目を迎えた全国ドイツ語スピーチコンテスト（日独協会主催）では、本選出場者15名中なんと2名が本学学生でした。その他ローカルコンテストですが、北海道新聞主催のフランス語スピーチコンテストの本選にも本学学生が一名出場しました。